母親の gatekeeping に関する研究動向と課題

―夫婦ペアレンティングの理解のために―

加　藤　道　代*
黒　澤　　泰**
神　谷　哲　司***

父親の育児関与に対して母親が与える影響を検討した研究は少ない。本稿は母親の gatekeeping の傾向に関する先行研究をレビューし，父親と母親がともに子育てを行う夫婦ペアレンティングに関する理解を進めることを目的とした。母親の gatekeeping は，父親が家庭の仕事に関与することを抑制しようとする母親の傾向と考えられてきた（Allen & Hawkins, 1999；Fagen & Barnett, 2003）。しかし，その概念や測度は多様かつ曖昧で検討の余地がある。また，もともと gatekeeping 研究は共働き家庭における父親の家事育児への関与という問題から生じていたため，有職の母親を対象とした調査が多かった。最近の研究では，母親による父親関与への抑制要因だけではなく，促進要因の存在が指摘されていることを考慮し，今後の研究に求められる課題をまとめた。

キーワード：子育て，父親の関与，母親の gatekeeping，coparenting

1. 問題と目的

子どもの出生により親になるという体験は，成人期の大きなライフイベントのひとつと言われる。ただしそれは，“イベント”という言葉からイメージされるような一回性の出来事ではなく，日々の子どもとの相互作用の中で継続して培われていくプロセスとしてとらえるのがより実際にかなっているだろう。子どもが生まれれば，誰もが最初から「親」として十分に機能するということではなく，親は，目の前の子どもとの親密な相互作用や，家族，周囲の人たちとの相互作用の日常的蓄積から，次第に親になっていく過程があるからである。しかも，親子であるという関係は，子どもが大きくなってもかわることはない。子どもが自立し新たな家庭を築けば，今度は祖父母として，子ども世代や孫世代への継承的な養育性を発揮することになる。このように，“親になること”や“親であること”は，生涯にわたる人間発達のプロセスの中でとらえることに意味のあるテーマといえる。

こうした親としての行動の背景には，多くの要因が複合的にかかわっており，影響を及ぼし合っ

*教育学研究科　教授
**教育学研究科　博士課程後期
***教育学研究科　准教授

ていることが知られている。Belsky（1984）のプロセスモデルにおいては，大きくは3領域の要因に分けられ，親要因（成育歴から影響を受けた親のパーソナリティ，子育てに対する態度など），親子をとりまく社会文脈的要因（夫婦関係，職業経験，親の社会的ネットワーク要因），子どもの特徴要因（気質，年齢，性別）が親としての行動を規定しているとされた。なかでも夫婦関係は，親行動に大きな影響を与えるとして重要視されている。ここから，一方の親はもう片方の親に対する主要なサポートとなり得るということが想定され，夫の子育てへの関与が母親の育児不安や育児ストレス，ひいては子どもの発達に良い影響を与えるという実証研究が蓄積された。Belsky のモデルは母親に限られたものではないが，日本においては，特に共働き家庭の増加等，社会的背景や，子育ての密室化が進む中で，母親が父親の育児協力を求める動きとも連動して，母親の育児に対する父親サポートの有用性を支持する結果が相次いだ。

一方，Lamb（1975）が，子育ての環境には母親以外にも子どもの発達に大きな影響を与える父親（“the forgotten contributors to child development”）が存在していることを指摘して以来，父親研究も盛んになった。それは，現代家族の形態の変化，母親の就業率の上昇と家庭内分業への影響および児童福祉に関する議論も進行した時期でもあり，“夫のサポートが妻の子育てを楽にするかどうか，子どもの発達に良い影響があるかどうか”という問いに加えて，“育児により多く関与することによって，父親としていかに発達するか”に関して議論されるようになった。父親の育児関与については，就業時間，ジェンダー観，経済収入，子ども数，夫婦関係，ワーク・ファミリー・バランスなどの背景が特定されてきている（Coltrane & Ishii-Kuntz，1992；Gaunt，2005；石井，2009他）。中川（2009）は，そうした先行研究をまとめて，父親の育児・家事参加の背景を，夫婦間の収入，学歴，年齢などの資源が少ない方が育児や家事を多く分担することになるという相対的資源論，育児や家事を遂行する時間的余裕のある方がより多く行うという時間的余裕論，子ども数が多く末子の年齢が小さい場合には，母親だけでは手が足りないために父親も担うことになるという家庭内需要論を挙げ，さらに妻の家庭責任意識，夫婦間の話し合いや働きかけをとおしたプロセスを考慮する重要性を提案した（中川，2009．2010）。

過去30年間を振り返ると，欧米では父親が家庭の仕事に携わる時間が増加したことが多々伝えられている（レビューとして Bianchi，& Milkie，2010）。わが国においても，男女共同参画が提唱されて共働き家庭が増加し，育児への父親の関与が子どもの発達に良い影響を与え母親の育児ストレスを低減させることが報告されてきた。しかし育児は依然として妻の役割であり，主要な養育担当者は妻である。わが国において，子どもの出生から始まる家族の拡大期における父親と母親の育児分担の様子をみてみると，育児の80％以上を母親が担う家庭は，どの年齢層でも70％前後を占めている。こうした母親集中型のうち，100％育児を母親に任せきりの家庭は若い世代ほど少ないが，20歳代の夫婦においても母親集中型が大半である（国立社会保障・人口問題研究所，2010）。第一子の出生を機に夫婦はそろって子育てのスタートラインについても，妻が認知する夫からのサポートは子ども年齢とともに有意に低下している（加藤，1999）。

父親は，実際に子育てに関与していないのだろうか，それとも，本当は関与していても母親にとっ

ての「役立ち感」の水準に合わないということなのだろうか。Belsky et al.（1995）が指摘するように，家族関係，夫婦関係，親行動，そして子どもの発達を繋ぐものとして，夫婦による coparenting（以下，夫婦ペアレンティング）[脚注]の過程が非常に重要なことは既に明らかである。Bronfenbrenner ら（Bronfenbrenner & Crouter,1983）もまた，家族機能を適切に理解するためには，家族システムにおける他の成員関係の影響を吟味することが必要であると早くから言及している。家族における個人や二者関係に生じる体験は，他の家族成員や成員同士の関係に影響を受け，影響を与えるからである（Cox & Paley，1997）。しかし日本においては，夫と妻を別々に取り上げて各々の親としての行動を記述したり各々の違いを比較する研究が多く，「母子＋父子＋父母（夫婦）」という，サブシステムの統合としての家族システム全体を包含した親発達研究や，父母はどのように“夫婦として共に”子育てにあたっているのかという夫婦ペアレンティングの調整の実態，そしてそのプロセスの解明のとりくみは少ない。

一方海外では，共働き夫婦における父親の育児関与促進に関する研究において，母親が父親の育児関与を妨げる直接間接の原因となり得ることが指摘されている。母親が家庭のマネージャーとなって，父親の育児関与に采配をふるい，家庭役割に対する自分の責任を維持しようとするために（Thompson & Walker，1989），あるいは離婚後に元母親が父親のことを悪く言うために（Dudley，1991），父親は子どもへの関与を妨げられると言われている。母親のこうした行動は，子どもに関わろうとする父親の前で，母親が家庭領域の門番のようにその鍵を担っているという意味合いから，“gatekeeping”と呼ばれる。gatekeeping 行動は，母親が母親アイデンティティの強さから，父親の関与に対して厳しい評価をしてしまうことに関わっており，gatekeeper の母親はそうでない母親よりも有意に家事育児の時間が長い（Allen & Hawkins,1999）。

専業主婦の8割以上が「子どもが3歳くらいまでは，母親は仕事を持たずに育児に専念した方がよい」と考えている日本の状況を考えると（国立社会保障・人口問題研究所，2010），このような gatekeeping の現象は，日本における子育て期の夫婦にもあてはまるのではないだろうか。しかしながら，日本において“gatekeeping”あるいは“maternal gatekeeping”をキーワードとした研究は，現時点ではほとんど見あたらない。ただし類似の現象をとらえたものとして，乳幼児を育てることによる他者との関係性変容に関する加藤（2007）の研究をあげることができる。母親が子どもとの強い一体感をもち「子どもの世話は自分がやらなければならない」という責任を取り込むと，他者からの援助を自ら遠ざけることになる。無論，他者からの援助が無くても順調に子育てが進むようであれば，母親の子育てに対する有能感や自信は高まるだろう。しかし，子育ての負荷が高まり自分ひとりでは対処できない局面では，母親は，他者の手を借りざるを得なくなる。しかしむしろ，他者の力を借りることによって，母親は他者の存在に気づきその力を信頼できるようになる。gatekeeping が主に母親の特性として扱われているのに対して，加藤は gate を開けることができるようになることを母親の発達変化として示した。それは，育児に対処できる能力やスキルの増加という側面ではなく，母親における他者との関係性の変化の側面である。そしてその契機になるのは，子どもの発達に伴う子育ての困難さの自覚であった。加藤（2007）においては，父親は，祖父母や友

人とともに母親にとっての“他者”としてまとめられているが，これを父親との関係に焦点化して示したものが図1である。父親に子どもをまかせられない状態は，gate が閉ざされた状態（gate-closing： gatekeeping）であり，父親に任せられる状態は gate が開けられた状態（gate-opening：coparenting）と考えられる。

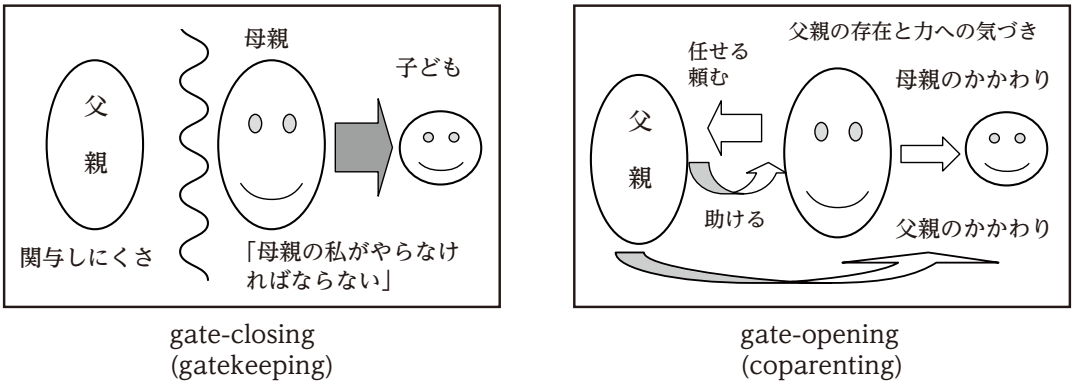

図1　母親による gate-closing/gate-opening と父親の子育て関与

日本の親研究は，父親の子育て関与が母親の精神的健康や子どもの発達に対して良い影響があることを繰り返し報告してきたが，母親自身が父親の関与を封じてしまう可能性についてはあまり考えてこなかった。これは，父親研究が本格的に取り組まれるようになったのが1990年代であり，男女共同参画が推進されるようになった時期であることから，“父親を育児に参加させる”ことで母親の就業機会を高めようという視点が強く，父親自身がもつ関与への動機を実際より低く見積もっていたせいかもしれない。あるいは，母親の育児負担を減らすために“父親にサポートしてもらう”という視点に集中していたせいかもしれないし，“母親はみな父親の育児関与を望んでいるにもかかわらず，父親側の理由で十分な関与がなされない”という暗黙の前提があったからかもしれない。いずれにしても，子育てに関する夫婦の相互影響関係の検討は，父親から母親へのサポートという文脈に限局され過ぎていたのではないだろうか。本稿では，これまで日本ではほとんど考えられてこなかった，父親の関与行動を抑制し，夫婦がともに親になっていくことを阻害すると思われる母親の gatekeeping について，主として海外の研究を概観する中で，その概念，関連要因，研究手法を整理する。さらに，日本における gatekeeping 研究の課題をまとめ，今後の夫婦ペアレンティング発達研究の一助としたい。

2. 概念の整理

gatekeeping 研究は，父親関与を抑制させる母親要因の“存在”の指摘からはじまる。そうした母親の gatekeeping を3次元でとらえ尺度化したのが Allen & Hawkins（1999）の研究であった。そこでは，母親から父親への抑制というネガティブな側面が強調されやすかったが，実際には，母親

による父親へのポジティブな行動も見られるという報告も少なくない。また，gatekeeping という用語は，信念，態度，行動等，様々な次元が含みこまれて使われていたことに対して，最近では行動面に着目する研究が増加している。ここでは，大まかな gateeeping の研究の流れに沿ってまとめていくことにする。

⑴父親による育児関与を阻害し抑制する母親の gatekeeping

gatekeeping は，母親が家庭の仕事のマネージャーとなって父親の育児関与に采配をふるい，家庭役割に対する責任を維持する母親の傾向を指し，この傾向が強いと父親の関与を低減させるという指摘がなされてきた（Thompson & Walker ,1989；Beitel & Parke, 1998；Bonney et al., 1999など）。例えば Marsiglio（1991）は，父親の育児関与は父親の特性よりもむしろ母親の特性に関連し，母親が父親の関与をコントロールしていることを指摘し，父親の積極的関与に対して母親はアンビバレントであることが少なくないと述べている。その背景として，母親は家庭内における自分の権力を失う恐れ，あるいは母親としてのアイデンティティを失う恐れから，父親を家庭内の仕事に関与させないという指摘や（De Luccie, 1995；Gaunt, 2007），母親には他に権力源がないことからおこるという指摘（Coltrane, 1996），母親が家庭内の仕事に高い基準を設定しており，父親の働きを評価しようとするという指摘（Thompson & Walker, 1989）がある。これらは，女性の家庭外の仕事が低収入で昇進や社会的地位からも遠いという女性の社会的地位の低さと対応し，家庭は女性の力や権威，地位を感じることのできる唯一の領域であるという理解を土台にしている。実際，伝統的な性役割観が強い母親は父親を遠ざけたり，父親の育児関与が低いことも明らかにされてきた（Hoffman & Moon, 1999：McBride, Brown, Bost, Shin, Vaughn, & Korth, 2005）。また，離婚後の母親は離婚前よりも育児への責任やコントロール感が高まることから，母親のコントロール感が元父親と子どもの接触頻度に与える影響や（Dudley, 1991；Ihinger-Tallman, Pasley, Beuhler, 1993），子どもの発達に与える影響（Machida & Holloway, 1991）が検討され，母親の gatekeeping として説明されている。父親と離れて子育てを行う母親の情緒的プロセスに焦点をあてた Sano, Richards, & Zvonkovic（2008）は，母親は父子関係の質を重要視しており，子どもが脅かされるようであれば gatekeeping はむしろ正当化されることを添えている。

⑵ Allen & Hawkins（1999）による定義：母親における gatekeeping の3側面

父親の育児関与を母親が阻害することがあることは示されても，gatekeeping の概念化はなかなか明確にされていなかった。これに取り組んだのは Allen & Hawkins（1999）である。Allen & Hawkins（1999）は，gatekeeping を，父母が2人で協力して家庭の仕事をすることを抑制する信念と行動（collection of beliefs and behaviors that may inhibit collaborative effort in family work）と定義した。この構成概念から開発された尺度は他の研究者によって採用され（Gaunt, 2007；Lee, 2010；Barry, Smith, Deutsh, & Perry-Jenkins, 2011など），後に続く研究に影響を与えた。Allen & Hawkins（1999）の尺度は以下の3側面から成る。

①性役割の基準と責任（standards and responsibilities）は，母親が父親に仕事を課し，一定の基準を設定して父親の関与をマネージメントすることにより，母親が自分の親役割の責任を相手に譲り渡すことに抵抗する側面を示している。母親の示す基準は，明らかなときもあるが暗黙の場合もある。もし母親が父親を批判したり，父親の行為をやりなおしすることで，父親の努力を低くみるような言動を行えば，父親の関与について信用していない，歓迎していないという気持ちが伝わる。②母親としてのアイデンティティと確認（maternal identity and confirmation）は，母親が育児や家事の中心的存在であるという役割期待が自分にとって正当であるという認識と，それを外的に認めてもらいたいという側面を示す。母親アイデンティティが母親にとっての満足や有能感の源となっている場合は，父親がその領域に関与すると，母親アイデンティティが脅かされ，罪の意識や後悔，アンビバレントな気持ちを抱くことになる。これに対して，よい母親，よい主婦であることを他者から認めてもらうことは，自分を肯定することにつながるのである。③家庭内役割の分業（differentiated family roles）は，家事育児は女性の役割であると考える度合いを示している。母親が家事や育児を自分の仕事だと思うほど，父親の関与をためらったり，父親を監督する行動が増えるだろう。こうして，これらの3側面が強ければ，母親は家庭の仕事に gate を取り付け，維持し，強化するスキーマを構築することになり，父親の関与は抑制される。

Allen & Hawkins（1999）は，回答者の母親をクラスター分析により gatekeeper 群，中間群，協力群に分類した。gatekeeper 群の母親は全体の21％であり，母親の家事従事時間および父親と母親の従事時間の差は協力群と比べて有意に多いことがわかった。Allen & Hawkins の定義はよく整理されており，gatekeeper の存在を実証した点で大変意義深い。構成された尺度は追試の蓄積もある。しかし，信念と行動を同レベルで扱っていること，家事と育児を一括してとらえていること，母親による父親関与への促進面がとりあげられていないこと，対象者が働く母親のみであり専業主婦が含まれていないなどの課題も残る。また母親による父親行動の評定であるということを考えると，そもそも gatekeeping 傾向の強い母親は，父親の関与行動を低く見積もる可能性もある（Gaunt, 2007）。また，下位尺度のうち differentiated family roles は2項目で測定されていること，クラスター分析による分類はサンプリングに依存するため，報告された gatekeeper 群の割合の一般性については慎重に解釈する必要があることも考慮しなければならない。

⑶父親関与に対する調整としての母親 gatekeeping（促進面への着目）

ところで，そもそも gatekeeping は，母親が自ら家庭内役割を取り込み，父親の関与を阻害するものであるため，ネガティブな含みやイメージを誘いがちである。しかし現実には，母親が父親の関与を励まし促すという肯定的な面があるという指摘は少なくない（Marsiglio, 1991；Walker & McGraw, 2000, Cannon, Schoppe-Sullivan, Mangelsdorf, & Sokolowski, 2008；Maurer, Pleck, & Rane, 2001）。例えば De Luccie（1995）は，母親が父親役割を重要であると見なす態度が gatekeeping 機能を果たし，さらに父親の子どもへの関与と母親のソーシャルサポート満足感や就業満足感の間をつなぐ媒介変数としても作用していることを示した。Herzog, Umana-Taylor,

Madden-Derdich, & Leonard（2007）は，父親の関与に対する母親の期待と満足を gatekeeping の指標としている（項目例「私は父親の育児スキルに満足している」）。gatekeeping の概念がやや拡大しすぎた感がないではないが，これも母親の背景要因と父親関与を促進的に媒介していることが示されている。Pruett，Williams，Insabella, & Little（2003）の尺度は，夫婦の別離や離婚に際して，(1)子どもの養育に関して配偶者の存在は重要であり，それを援助するのは自分の役目であると考える程度，(2)自分が親役割を十分に果たすために配偶者から受けた援助や，子どもに対する配偶者の見方への肯定的な感情の程度，(3)過去，現在の自分の養育行動に対して，配偶者から受けた援助が自分の養育能力や自信に与えた影響の程度が問われている。3つの下位尺度はいずれも，gate を開けるか閉じるかの動機と意思決定の程度を評定するものである。確かに，母親が父親に対して，より適切な基準を示し，よりサポーティブであれば，父親はもっとうまく育児を行うにはどうしたらよいのかを学ぶ機会となる。母親が gate を閉じるのではなく gate を開けることで，父親が家庭に関与するための仲介役となれば（Parke, Dennis, Flyr, Morris, Leidy, & Schofield, 2005.），父親にとっては，家庭に対する“支援者”ではなく“行為者”となる道筋が開かれるだろう。

このように，母親から父親に向けられた促進面への注目について，ここでは特に2つの研究の流れを挙げておきたい。ひとつは，父親と母親がともに子育てを行なっているという肯定的な意識を，parenting alliance（以下，協働感：佐藤，2008）という枠組みから評定するものである。Weissman & Cohen（1985）によれば，協働感は，①父親も母親も各々が子どもに育児に自己投入していること，②各々が子どもの成長発達において相手の重要性に価値を置くこと，③各々が相手を尊重し，相手の判断に価値を置くこと，④相互のコミュニケーションは，子どものニーズをめぐって協調的に維持することの4要因から整理されている。したがって育児の協働態勢は，夫婦としての関係とは区別され，“子育てに向けられた”父親と母親としての2人の関与と努力の度合いであり，同時に子どもの発達ニーズにふさわしいものでなければならない。これを踏まえて Abidin & Brunner（1995）は，Weissman & Cohen（1985）の4領域を含む20項目の尺度を作成している。協働感は，夫婦の育児関与とコミュニケーションの要素であることから，離婚による親子の離別に関する子どもの傷を軽減し（Weissman & Cohen, 1985），特別なニーズをもつ子どもの父母の親行動にも重要（McBride & Rane, 1998）であると考えられている。育児に関する協働感と夫婦関係における協働感は区別されることが多く，父親の育児関与は，一般的な夫婦満足よりも親行動についての夫婦関係によって予測されると考えられている（Cohen & Weissman, 1985；Abidin, 1992；McBride & Rane, 1998；Van Egeren, 2004）。例えば，離婚後に母親の gatekeeping が強いことは元父親と子どもの接触を減らすことになるが，ここでも母親のサポートがあれば父親の関与は増加することが示されており（Ichinger-Tallmanet al, 1995；Madden-Derdich & Leonard, 2000），パートナーとしての関係には困難性があっても，各々が親として子どものニーズにあわせた関係を維持する可能性は残されていると考えることができる（McBride & Rane, 1998）。ただし離婚にまつわる夫婦協働については，日米の文化背景を考慮する必要があるだろう。

母親から父親関与への肯定的な面を考慮したもうひとつの研究の流れは，母親が父親を否定し批

判する面と，励まし支える面の2側面を評定しようとするものである（De Luccie, 1995）。gatekeeping の抑制面は，母親が自分を子育ての第一責任者と思っていることや，父親の子育て行動を批判することであり，父親が子どもとふれあう機会を減少させ，2人で子育てをするのを制限することにつながるとされている。一方，促進面は，父親が子どもとやりとりするのを励まし，子育ての経験を獲得する機会を作り出そうとするファシリテータの役割（Roy & Dyson, 2005）である。母親による抑制と促進それぞれが父親関与に与える影響は検討されているが，2つの側面を組み合わせによって，その影響をとらえようとする試みは未だ行われていない。

⑷行動レベルでとらえる gatekeeping

抑制だけでなく促進面をもとらえようとすることによって，夫婦ペアレンティングの実態により近づく一方で，gatekeeping の概念において，信念や態度および行動が区別されていないという課題は残ったままであった。この点に関して Fagen & Barret（2003）は，父親を重視する態度であっても父親を遠ざける行動は起こり得るとして，態度と行動を分離し，父親の行動に任せずに母親が自分自身で行う程度を尋ねる意思決定行動項目による gatekeeping 尺度を構成した。全項目が逆転項目であるという点で使用しにくさがあるが，育児に関する家庭内の実効的な意思決定行動がどのように配されているかという点に着目した点で興味深い。ただし抑制面のみが着目されていること，父親の関与を母親が評定しているという限界がある。中川（2009）は，育児と家事に関する母親から父親への促進的な働きかけについて，頼む，あてにするという3項目で評定し，妻の行動が夫の関与（妻と夫の回答の平均値）を高めていることを示した。また，Schoppe-Sullivan et al.（2008）は，Van Egeren 案出による母親が行う父親関与への調整行動評定尺度（Van Egeren, 2000）を一部採用して，母親の調整行動が，父親の信念と行動および夫婦ペアレンティングの質と父親行動の関係を媒介する役割を果たしていることを明らかにした。

Cannon et al.（2008）が行った研究は，母親と父親をペアでとらえたこと，gatekeeping を客観的な行動観察でとらえたこと，縦断的手法を取り入れたという点で画期的である。gatekeeping による抑制行動は，言語・非言語による父親から子どもへの関与行動の制限（例：父親が子どもの世話をしたり，ひとりで子どもに関わることに対する母親の批判など）によって観察された。促進面は，子どもに対する父親のやりとりへのサポートの観察である（例：父子の遊びややりとりの間，母が父親にサポーティブな言葉がけをするなど）。その結果，母親による促進的調整行動は父親の関与行動を増加させることが明らかとなった。ただし Cannon et al.（2008）自身が指摘するように，父親の行動が低いほど母親の促進が多いという異なるパターンが同時に見られていることには注意しておきたい。母親が積極的に働きかけると父親の関与が増加するという関係と，父親の関与が少ないので母親が積極的に働きかけるようになるという関係が，促進行動の中に混在する可能性があるからである。実験観察法には一場面評定という限界があるとしても（Cannon et al., 2008），gatekeeping を観察可能な行動レベルの概念としてとらえたことによって，今後の多様な研究アプローチが期待される。

3. 関連要因の整理

ここまで，先行研究から gatekeeping 概念を整理し，その幅広さと曖昧さを述べてきた。当然のことながら，概念が明確でなければ関連要因の整理は難しい。特に課題として指摘しなければならないのは，蓄積されてきた先行研究が，「父親の育児関与を阻害するのが gatekeeping である」という点では一致していたものの，使用した gatekeeping 尺度と父親関与度が負の有意な相関を示すことによってはじめて gatekeeping の存在が示唆されるという議論の方向であったことである（Palkovitz, 1984；De Luccie, 1995；Beitel & Parke, 1998；McBride & Rane, 1998；Hoffman & Moon, 1999；McBride et al, 2005）。例えば De Luccie（1995）は，母親が父親役割を重要視する態度が gatekeeping 機能をはたしていると仮定して調査を行い，父親の関与との間に有意な相関が認められたことをもって gatekeeping と見なし，その後の分析を進めている。また評定尺度には，信念，態度，行動等の項目が含まれることが多かったため，父親の育児関与の要因と gatekeeping との関係が区別されにくかった。すなわち，父親の育児関与の要因は数多くあるわけであり，そうした多要因と gatekeeping がどのような関係にあるのかという点は吟味されていなかった。例えば，De Luccie（1995）のように，母親が父親役割を重要視する態度を gatekeeping と扱った研究もあるが，Cannon et al.（2008）のように，父親役割を重要視する態度を gatekeeping に影響を与える要因とした研究もある。この点に関して，最近の研究（Fagen & Barret, 2003；Cannon et al., 2008；Schoppe-Sullivan et al., 2008）は，先述のように gatekeeping を行動レベルでとらえ，gatekeeping という母親要因が，設定された要因と父親関与の間の媒介変数としてどのように有効であるか，あるいは，信念が母親のパーソナリティと母親の gatekeeping 行動の間の媒介変数としてどのように有効であるかなどのモデル解明に着手しており，従来の変数関係の混乱が整理されていく途上にある。このほかにも，これまでの海外 gatekeeping 研究は，乳幼児をもつ有職の母親を対象者として行われることが多く，日本に適用して考察を進めるためには，文化的背景の考慮とともに，専業主婦を含めたデータの解析が必要である。そうした限界を念頭におきながら，以下，先行研究を概観する。

Gaunt（2007）は，6ヶ月～3歳の子どもをもつ母親を対象に，Allen & Hawkins（1999）の尺度を用いた調査を行なった。その結果 gatekeeping は，子年齢および父母の就業時間と有意な関連がみられないこと，セルフ・エスティームが低い母親は高い母親よりも gatekeeping 傾向が高く父親と子育てを共有したがらないことがわかった。また，母親アイデンティティ，母親の家事時間，父母の家事時間の差とは正の関連を示し，母親の仕事時間，収入，教育歴とは負の関連を示している。Kilik & Tsoref（2010）は，母親による女性役割の肯定，父親の関与に対する母親の満足，母親の学歴，家庭の収入が，母親の gatekeeping を説明することを示した。

母親が認知する父親コンピテンスと gatekeeping の負の関連は多く報告されている（Hawkins, Marshall & Meiners, 1995；Fagen &Barret, 2003；Trinder, 2008など）。父親が子どもに関わる時間が増加すると父親のコンピテンスが上昇することは知られているが（Lamb, 1987），注目したいのは，母親の認知する父親の育児コンピテンスの低さにより，父親の関与が減少することである

(Beitel & Parke, 1998；Rane & McBride, 2000)。これはすなわち，母親が媒介要因として作用していることを意味する。無論，母親が父親のコンピテンスを感じられないという状況は，父親自身の感じるコンピテンス自体が低く，その結果として父親関与が低い状態にあるということは十分に考えられる。しかし，母親が父親のコンピテンスを感じられないことによって，母親の gatekeeping が上昇し，その結果，父親の関与が阻害されるという道筋，すなわち「父子→夫婦→父子」という影響関係も想定できよう。また，研究はいずれも父親の関与の程度が従属変数として扱われているが，父親の関与の低下がさらなる父親のコンピテンスの低下につながり，父親の関与が低下することによって，母親の gatekeeping が高まるという影響関係も想定できるかもしれない。こうした夫婦相互作用による循環的な影響関係を示唆するものとして，Tremblay & Pierce (2011) による第一子出生から生後18ヶ月までの子育て中の夫婦を対象とした縦断調査がある。これによれば，生後2ヶ月時に父親自身が感じる自己効力感が高いほど，5ヶ月時の父親関与に対する母親の認知は高い。さらに，2ヶ月時に母親が父親関与を高く認知しているほど，5ヶ月時の父親自身の自己効力感および結婚満足感は高い。これらのことから，父親と母親における認識の相互影響関係が父親の関与行動に与える影響が明らかにされている。

パーソナリティが本人の養育行動に大きな影響を与えることは早くから指摘されており，神経質傾向とネガティブな養育行動への関連など実証的研究も数多い (Belsky, 1984；Belsky & Barends, 2002 Belsky et al., 2002)。一方，パーソナリティと gatekeeping の関係については，母親アイデンティティの強さや外向性と関連の深い“対人交流性 (communion)”が高い母親の場合，父親は母親よりも関与行動が低く，他の父親に比べてコンピテンスが低い。加えて，怒り，不安，恐れなどと関連の深いネガティブな情緒は，母親から父親に対する抑制行動を高めるが，父親を重要と考える信念によってその影響が緩和されることが確認されている (Cannon et al., 2008)。Lee (2010) は，3種類の gatekeeping 尺度と NEO-FFI の5次元の関連を確認している。そこでは，Allen & Hawkins (1999) の gatekeeping 尺度の3次元 (性役割の基準と責任，母親としてのアイデンティティと確認，家庭内役割の分業)，育児に関する意思決定行動によって gatekeeping を評定しようとした Fagen & Barnett (2003) による Maternal Gatekeeping Scale，そして，Schoppe-Sullivan et al. (2008) が採用した抑制行動 (批判) と促進行動 (励まし) の Parental Regulation Inventory (オリジナルは Van Egeren, 2000) がとりあげられ，NEO-FFI の5次元：神経症傾向 (Neuroticism)，外向性 (Extraversion)，開放性 (Openness)，調和性 (Agreeableness)，誠実性 (Conscientiousness) との相関が検討された。その結果，「調和性」と「性役割の基準と責任」，「家庭内役割の分業」，および「抑制行動 (批判)」には負の弱い相関関係が認められた。また，「誠実性」と「(家庭内の) 意思決定行動」，「外向性」と「促進行動 (励まし)」，「神経症傾向」と「母親としてのアイデンティティと確認」および「抑制行動 (批判)」に正の弱い相関が見られた。この研究は，母親の gatekeeping とパーソナリティとの関連を確認する意味でも，従来の gatekeeping 尺度が測定するものの性質を吟味する意味でも，貴重な研究と言える。

Van Egeren (2003) は，出産後の夫婦ペアレンティングの順調な形成に対して，子ども出生前の

パーソナリティが予測因となることを示唆している。母親にとっては，年齢，父親の学歴，子育ての関心，リアクタンス要因が関連し，父親にとっては，職業，母親のアイデンティティ発達の程度，原家族における夫婦ペアレンティングの程度，子育て動機が関連を示した。ただし動機の高い父親に対して，動機の高い母親が父親の子どもへの接近をコントロールしようとすると，母親は葛藤を抱きやすい。母親の特性としてのリアクタンスに関しては，怒り，衝動，関係回避などの母親特性が初期段階の夫婦ペアレンティングを不安定にしていた。また，父親の特性は，母親変数と関連することで夫婦ペアレンティングに影響を与えていることも明らかとなった。

なお，Van Egeren の指摘した原家族の要因に関しては，Cannon et al.（2008）においてもとりあげられている。これは，子ども時代の親との関係を思い出して評定するもので，得点が高すぎると親を理想化している可能性が想定される。結果は，母親が自分の親を理想化している場合は，子どもとの遊び場面における父親の関与がより少なかった。ただし，2つの研究からは，父親側の原家族における夫婦ペアレンティングの高さは父親関与を高め（Van Egeren, 2003），母親側の原家族における夫婦ペアレンティングの高さは父親関与を低下させることが示唆されており（Shoppe-Sullivan et al., 2008），各々の原家族要因が夫婦ペアレンティングの中にどう組み込まれ調整されていくのかについては，より詳しい検討が待たれるところである。

4. 研究の課題の整理と今後の展望

最後に，概念の整理や関連要因の整理を進める中で触れてきた gatekeeping 研究の課題を含めてあらためて課題を整理し，今後の研究の可能性について述べていきたい。

gatekeeping というアイデアは，“父親の育児関与増加を阻んでいる要因は何か”というシンプルな問いから端を発していた。この問いを家族システムの文脈でとらえることにより，父親要因から父親行動への影響を探索するばかりではなく，母親要因の影響や，母親要因と父親要因の組み合わせによる媒介的作用を考慮に入れることが有効となった。ただし，そもそも研究の目的が共働き家庭の妻の負担の軽減をはかることから始まっていたこともあり，これまでの研究対象者は，乳幼児育児を行う有職の母親や共働き家庭が多い傾向にあった。このように，gatekeeping 研究の第一の課題は，研究対象がやや有職者の母親に偏ったデータで議論されてきた点である。gatekeeping が母親アイデンティティの強さと関連しており，特に乳幼児をもつ母親が育児に専念することが多いことを考慮すれば，日本においては専業主婦を対象にした研究も重要となるだろう。ただし，例えば，母親が無職かパートタイムの場合，父親が非伝統的育児観であるとより子育てに関与し，母親がフルタイム就業の場合は，育児観にかかわらず父親は関与しているといった結果が示すように（NICHD, 2000），母親の就業要因を考慮する場合は，就業の有無による検討だけではなく，就業の有無がどのような要因との関連で gatekeeping や父親関与に影響を与えるのかという精査が必要となる。

第二は，ごく最近の調査を除いた先行研究の多くが母親のみを対象としていたことである。これについては，そもそも gatekeeping 高群の母親は父親関与を低く見積もっているかもしれないとい

う指摘もあがっており（Gaunt, 2007），実態をとらえるには母親回答のみでは不十分であり，ペアデータによる分析が必要となるだろう。ペアデータの分析は，サンプリングの基準と回収率の低さ，あるいは夫婦そろって回答することができる夫婦であることのデータバイアスの課題も存在するが，夫婦間の相互作用研究を進めるために不可欠なアプローチであることは間違いない（黒澤，2011）。

第三は，本稿で既に述べてきた測度の問題である。測度の問題は，gatekeeping の構成概念と密接に関わっており，gatekeeping 行動項目と背景要因の項目および他の父親参加抑制要因に関する項目の整理が必要であろう。また，父親関与の抑制面だけではなく促進面にも目を向けていくという近年の動向に加え，今後は抑制面と促進面の組み合わせを考慮し，母親の調整行動を多面的にとらえることも必要である。これによって，父親に対して抑制も批判も行わない母親や，あるいは双方を行う母親が存在する可能性についても吟味することができるだろう。なお測度については，欧米との文化差や，社会的望ましさの扱いについても考慮する必要がある。

第四として，子どもの特性や子どもとの相互作用をどのように研究デザインに取り込むかという課題がある（Walker & McGraw, 2000）。子育て中の夫婦を対象とするというだけでは，他の夫婦間葛藤との違いが明らかではなく，夫婦ペアレンティング研究として十分とは言えない。最終的に夫婦ペアレンティング研究が目指すのは，「母子＋父子＋父母（夫婦）」という，サブシステムの統合としての家族システムを包含することである。

第五には，Parke（2002）や Parke et al.（2005）が述べるように，gatekeeping という用語は，最終的にはジェンダーから切り離されたニュートラルな言葉として使う必要がある。母親同様父親も，他の活動領域との関係によっては家庭生活の gatekeeper となる可能性があるからである。日本の現状としては母親が家庭の gatekeeper であることが主流であっても，長期的には，父親か母親かにかかわらず一方の関与のレベルを他方が制限したり促進したりするものとして広く認識しておいた方がよいだろう。

第六にあげるのも，同じく用語上の問題である。gatekeeping は，gate を閉じること，すなわちそれ自体が父親関与への抑制的な意味合いを含んでいるため，「gatekeeping における促進」という使い方には矛盾が生じる。したがって父親関与に対する母親の促進面をとらえようとすると，用語の整理が必要となる。今後，抑制面と促進面の各側面，あるいは両者の組み合わせやバランスが父親関与に与える作用の双方を検討するためには，母親による gatekeeping というよりも，母親による父親関与の“調整”と称する方が適切かもしれない。そしてその先には，父親と母親になっていくために夫婦という単位で行われる調整，すなわち「夫婦ペアレンティングの調整」を明らかにすることを見据えなければならない。

第七には，母親の gatekeeping が父親に与える影響に関する縦断調査と質的調査の少なさがあげられる（Adamson, 2010）。Gaunt（2007）は，母親にとって gatekeeping は必ずしも意図的であったり知覚されたものとは限らず，父親への影響も潜在的なものを含む可能性があることを指摘している。そうした可視化されない性質は，量的研究だけではとらえることのできない領域であり，質的

調査もしくは事例研究が有効となるかもしれない。一方，縦断研究としては，先述の Van Egeren（2003，2004）や Cannon et al.（2008），Schoppe-Sullivan et al.（2008）にみられるように，親になった最初の時期，すなわち子どもの乳幼児期の子育て期が焦点化されやすい。しかし，子どもの出生から自立（巣立ち）まで，子育てを生涯的にみると，そこには困難期もあれば安定期も存在し，夫婦ペアレンティングのあり方にも様々な変化が予想される。特に夫婦調整が必要となる時期は乳幼児期ばかりではなく，第二次反抗期とも呼ばれる思春期や，進学，就職，結婚などの自立期にも各々の課題が存在するだろう。各時期に，親はどのように“夫婦として共に”子育てにあたっているのか，母親の gatekeeping 行動あるいは調整行動は，どのように夫婦ペアレンティングに作用しているのかなど，生涯発達心理学の文脈でとらえることには重要な意味がある。その際，gatekeeping を母親（あるいは養育者）の特性としてとらえるか，あるいはより状況依存的な要因として仮定するかについての議論も未だ見られておらず，この点についても今後の研究の蓄積が待たれるところである。

生涯にわたる親行動の理解という点に付随して，父親の関与のとらえ方について補足をしておきたい。Lamb（1987）は，父親の育児関与について，①子どもの世話や遊びなど1対1での子どもとかかわること，②子どもの求めに応じられること（子どもが遊んでいる横で新聞を読んでいるなど），③子どもの日々のケアや福祉に責任をもつこと，の3次元でとらえることの重要性を説いている。したがって子どもの発達変化を背景として夫婦のペアレンティングを考えるということは，子どもの保護，世話，責任，娯楽，教育，その他の様々な領域への関与のバランスやその方法自体が変容する中で，父親と母親が互いに補い合い，高め合って全体を共有していく工夫の姿をとらえるということにほかならない。先に，「夫婦ペアレンティングの調整」と呼んだのは，まさにこの過程である。

従来，日本の女性の就業率は，20代半ばと50代前後が2つのピークとなりその間が低迷する，いわゆる「M 字カーブ」を描いてきた。そこには，出産・育児期には子育てに専念するために就業をひかえ，育児が終わってから再び働きだすという女性の働き方の傾向があらわれている。しかし，最近20年間をふりかえると，「M 字型カーブ」の谷間にあたる25歳～34歳の就業率が上昇してきている（厚生労働省，2011）。ところがその一方で，「夫は外で働き，妻は主婦業に専念すべき」に賛成と考える女性は，専業主婦の5割強，常勤の妻の3分の1であり，常勤の妻の賛成割合は増加傾向にある。こうした数字の裏に，母親の複雑な思いが存在することは想像に難くなく，日本の夫婦ペアレンティングのあり方は，欧米のそれをそのまま適用できるとは限らない。今後の研究は，母親による gatekeeping の存在を指摘することに終始することなく，母親による父親行動の調整という視点から夫婦ダイナミクスをとらえることを通じて，生涯にわたる「夫婦ペアレンティング調整」のメカニズムを明らかにすることをめざすことが望まれる。

【脚注】

本来，coparenting は法的な夫婦関係に限定されない概念であるが，日本においては，父母双方，あるいはいずれかが子育てをするという規範が強く，実態としても夫婦関係で coparenting を調整することが多いと考えられるため，ここでは「夫婦ペアレンティング」とした。ただし親役割の相互調整という問題そのものは，神谷（2008）が提案

するように，法的な夫婦関係に限定されるものではなく，家族システム内の複数の養育者においてとらえるべきものであると考える。

【参考文献】

Abidin, R. R., & Brunner, J. F. 1995. Development of a parenting alliance inventory. *Journal of Clinical Child Psychology*, **24,** 1, 31-40.

Adamsons, K. 2010. Using identity theory to develop a midrange model of parental gatekeeping and parenting behavior. *Journal of Family Theory & Review,* **2,** 137-148.

Allen, S. M., & Hawkins, A. J. 1999. Maternal gatekeeping: Mother's belief and behaviors that inhibit greater father involvement in family work. *Journal of Marriage and Family,* **61,** 199-212.

Barry, A. A., Smith, J. Z., Deutsh, F. M., & Perry-Jenkins, M. 2011. Fathers' involvement in child care and perception of parenting skill over the transition to parenthood. *Journal of Family Issues,* **32,** 1500-1521.

Beitel, A. & Parke, R. D. 1998. Paternal involvement in infancy: The role of maternal and paternal attitudes. *Journal of Family Psychology,* **12,** 268-288.

Belsky, J. 1984. The determinants of parenting: A process model. *Child Development,* **55,** 83-96.

Belsky, J., Crnic, K., & Gable, S. 1995. The determinants of coparenting in families with toddler boys: Spousal differences and daily hassles. *Child Development,* **55,** 629-642.

Belsky, J. & Barends, N. 2002. Personality and parenting, In M. H. Bornstein（Ed.）, *Handbook of Parenting*. Vol. 3. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates Inc. pp. 415-438.

Bianchi, S. M., & Milkie, M. A. 2010. Work and family research in the first Decade of the 21th century. *Journal of Marriage and Family,* **72,** 705-725.

Bonney, J.F., Kelly, M. F., & Levant, R. F. 1999. A model of fathers' involvement in child care in dual-earner families. *Journal of Family Psychology,* **13,** 401-415.

Bronfenbrenner, U., & Crouter, A. C. 1983. The evolution of environmental models in developmental research. In P. H. Mussen（Ed.）, *Hamdbook of child psychology*. Vol. 1. 4th ed. New York: Willey. 357-414.

Cannon, E. A., Schoppe-Sullivan, S. J., Mangelsdorf, S. C., & Sokolowski, M. S. 2008. Parent characteristics as antecedents of maternal gatekeeping and fathering behavior. *Family Process,* **47,** 4, 501-519.

Coltrane, S. 1996. Family man: Fatherhood, housework, and gender equity. New York: Oxford University Press.

Coltrane, S., & Ishii-Kuntz, M. 1992. Men's housework: A life course perspective. *Journal of Marriage and Family,* **54,** 43-57.

Cox, M. L., & Paley, B. 1997. Families as systems. *Annual Review of Psychology,* **48,** 243-267.

De Luccie, M. F. 1995. Mothers as gatekeepers: A model of maternal mediators of father involvement. *The Journal of Genetic Psychology,* **156,** 1, 115-131.

Dudley, J. R. 1991. Increasing understanding of divorced fathers who have infrequent contact with their children. *Family Relations,* **40,** 3, 279-285.

Fagen, J., & Barnett, M. 2003. The relationship between maternal gatekeeping, paternal competence, mothers' attitudes about the father role, and father involvement. *Journal of Family Issues,* **24,** 8, 1020-1043.

Gaunt, R. 2005. The role of value priorities in paternal and maternal involvement in child care. *Journal of Marriage and Family,* **67,** 643-655.

Gaunt, R. 2007. Maternal gatekeeping: Antecedents and consequences. *Journal of Family Issues,* **29,** 373-395.

Hawkins, A.J., Marshall, C.M., & Meiners, K.M. 1995. Exploring wives' sense of fairness about family work: An initial test of the distributive justice framework. *Journal of Family Issues,* **16,** 693-721.

Herzog, M. J., Umana-Taylor, A. J., Madden-Derdich, D. A., & Leonard, S. A. 2007. Adolescent mothers' perceptions of fathers' parental involvement: Satisfaction and desire for involvement. *Family Relations,* **50,** 244-257.

Hoffman, C. D., & Moon, M. 1999. Women's characteristics and gender role attitudes: Support for father involvement with children. *The Journal of Genetic Psychology,* **160,** 4, 411-418.

Ihinger-Tallman, M, Pasley, K., Beuhler, C. 1993. Developimg a middle-range theory of father involvement postdivorce. *Journal of Family Issue,* **14,** 550-571.

石井クンツ昌子．2009．父親の役割と子育て参加：その現状と規定要因，家族の影響について．季刊家計経済研究，**81,** 16-23.

神谷哲司．2008．「育児する親」とジェンダー．柏木惠子・高橋恵子（編）『日本の男性の心理学』東京：有斐閣，pp.185-190.

加藤道代．1999．育児初期の母親の養育意識・行動とサポート資源．国立婦人教育会館研究紀要，**3,** 53-59.

加藤道代．2007．子育て期の母親における「被援助性」とサポートシステムの変化(2)．東北大学大学院教育学研究科研究年報，55，2，243-270.

Kilik, L., & Tsoref, H. 2010. The entrance to the maternal garden: Environmental and personal variables that explain maternal gatekeeping. *Journal of Gender Studies,* **19,** 3, 263-277.

国立社会保障・人口問題研究所（編）．2010．2008年第4回全国家庭動向調査．
<http://www.ipss.go.jp/ps-katei/j/nsfj4/nsfj4_top.asp>（平成24年9月20日 アクセス）.

厚生労働省．2011．平成22年度版 働く女性の実情.
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/10.html>（平成24年9月25日アクセス）

黒澤泰．2011．共働き夫婦におけるスピルオーバーとコーピング：夫婦を分析単位とした視点から．応用心理学研究，**37**(1)，29-39.

Lamb, M. 1975. Fathers: Forgotten contributors in child development. *Human Development,* **18,** 245-266.

Lamb, M. 1987. The father's role: Cross-cultural perspectives. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum.

Lee, M. 2010. *The big five personality traits and maternal gatekeeping at the transition to parenthood.* (senior thesis, Ohio University）. Retrieved from https://kb.osu.edu/dspace/handle/1811/45471 (2012年9月20日アクセス >)

Machida, S. & Holloway, S. D. 1991. The relationship between divorced mothers perceived control over childrearing and children's post-divorce development. *Family Relations,* **40,** 272-278.

Madden-Derdich, D.A., & Leonard, S.A., 2000. Parental role identity and fathers' involvement in coparental interaction after divorce: fathers' perspectives. *Family Relations,* **49,** 311-318.

Marsiglio, W. 1991. Paternal engagement activities with minor children. *Journal of Marriage and Family,* **53,** 4, 973-986.

Maurer, T. W., Pleck, J. H., & Rane, T. R. 2001. Parental identity and reflected-appraisals: Measurement and gender

dynamics. *Journal of Marriage and the Family,* **62,** 1173-1191.

McBride, B. A. & Rane, T. R. 1998. Parenting alliance as a predictor of father involvement: An exploratory study. *Family Relations,* **47,** 3, 229-236.

McBride, B. A., Brown, G.L., Bost, K. K., Shin, N., Vaughn, B., & Korth, B. 2005. Parental identity, maternal gatekeeping, and father involvement. *Family Relations,* **54,** 3, 60-372.

中川まり. 2009. 共働き夫婦における妻の働きかけと夫の育児・家事参加. 人間文化創成科学論叢(お茶の水女子大学), **21,** 305-313.

中川まり. 2010. 子育て期における妻の家庭責任意識と夫の育児・家事参加. 家族社会学研究, **22,** 2, 201-212.

NICHD Early Child Care Research Network. 2000. Factors associated with fathers' caregiving activities and sensitivities with young children. *Journal of Family Psychology,* **14,** 200-219.

Palkovitz, R. 1984. Parental attitudes and fathers' interactions with their 5-month-old infants. *Developmental Psychology,* **20,** 1054-1060.

Parke, R. D. 2002. Fathers and families. In M. Bornstein（Ed.）, *Handbook of Parenting*. Vol. 3.2nd ed. ,. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates. pp. 27-73.

Parke, R. D., Dennis, J., Flyr, M.L., Morris, K.L., Leidy, M.S., & Schofield, T. J. 2005. Fathers: Cultural and ecological perspectives. In T. Luster, & L. Okagaki（Eds.）*Parenting - An Ecological Perspective*. 2nd ed. London : Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

Pruett, M. K., Williams, T. Y., Insabella, G., & Little, T. D. 2003. Family and legal indicators of child adjustment to divorce among families with young children. *Journal of Family Psychology,* **17,** 2, 169-180.

Roy, K. M., & Dyson, O. L. 2005. Gatekeeping in context: Babymama drama and the involvement of incarcerated fathers. *Fathering: A Journal of Theory, Research, and Practice about Men as Fathers,* **3,** 3, 289-310.

Sano, Y., Richards, L. N., & Zvonkovic, A. M. 2008. Are mothers really "gatekeepers" of children?: Rural mothers' perceptions of nonresident fathers' involvement in low-income families. *Journal of Family Issues,* **29,** 1701-1723.

佐藤奈保. 2008. 乳幼児期の障害児をもつ両親の育児における協働感と相互協力の関連. 千葉看護学会誌, **14,** 2, 46-53.

Schoppe-Sullivan, S. J., Cannon, E. A., Brown, G. L., Mangelsdorf, S. C., & Sokolowski, M. S. 2008. Maternal gatekeeping, coparenting quality, and fathering behavior in families with infants. *Journal of Family Psychology,* **22,** 3, 389-398.

Thompson, L., & Walker, A. J. 1989. Gender in families: Women and men in marriage, work, and parenthood. *Journal of Marriage and Family,* **53,** 461-474.

Tremblay, S., & Pierce, T. 2011. Perceptions of fatherhood: Longitudinal reciprocal associations within the couple. *Canadian Journal of Behavioural Science,* **43,** 2, 99-110.

Trinder, L. 2008. Maternal gate closing and gate opening in postdivorce families. *Journal of Family Issues,* **29,** 10, 1298-1324.

Van Egeren, L. A. 2000. The parental regulation inventory. Michigan State University, East Lansing. Unpublished manuscript.

Van Egeren, L. A. 2003. Prebirth predictors of coparenting experiences in early infancy. *Infant Mental Health Journal,* **24,** 3, 278-295.

Van Egeren, L. A. 2004. The development of the coparenting reletionship over the transition to parenthood. *Infant Mental Health Journal,* **25,** 5, 453-477.

Walker, A. J., & McGraw, L. A. 2000. Who is responsible for responsible fathering? *Journal of Marriage and Family,* **62,** 563-569.

Weissman, S. H., & Cohen, R. S. 1985. The parenting alliance and adolescence. *Adolescent Psychiatry,* **12,** 24-45.

本研究は科研費基盤Ｂ（24330191，研究代表者：加藤道代）の助成を受けた。本研究実施にあたって，Dr. Van Egeren（Michigan State University），Dr. Schoppe-Sullivan（Ohio State University），佐藤奈保先生（千葉大学）より貴重な助言を頂いた。なお，本稿の一部は東北心理学会（2012，新潟：新潟大学）において発表され，森和彦先生（秋田大学），足立智昭先生（宮城学院女子大学）より示唆を頂いた。ここに感謝致します。

Trends and issues on maternal gatekeeping researches :

For better understanding of coparenting

Michiyo KATO
(Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)
Tai KUROSAWA
(Graduate Student, Graduate School of Education, Tohoku University)
Tetsuji KAMIYA
(Associate Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

Few studies have examined the way in which mother's characteristics may affect father involvement to child rearing. We reviewed previous literatures discussing mother's gatekeeping tendencies in order to progress a theoretical basis on coparenting. Maternal gatekeeping is commonly defined as mother's preferences and attempts to inhibit father's participation in family work (Allen & Hawkins, 1999 ; Fagen & Barnett, 2003) . However, conceptualization and research measures are ambiguous and controversial. In addition, the early researches sampled working mothers rather than homemakers, because gatekeeping study originated in father involvement issue in dual earner couples. Recent literatures indicate that mother can facilitate and promote father involvement. Issues required for the future study are discussed.

Key Words : child rearing, father involvement, maternal gatekeeping, coparenting